

「交番検査の検査周期延伸」は『安全最優先』か？！

12月9日に会社から各労働組合に対して「交番検査周期延伸」の詳細が「提案」されるのではと噂されています。会社はすでにN700系以降の車両については「テストカーで走行試験を実施し問題のないことを確認したので3月23日に中部運輸局へ届け出をし4月1日付で検査周期の規程を現在の3万キロから倍の6万キロにした」として、職場においても『車両関係規定集』の差し替えを行っていました。

平成13年に国土交通省から出された「設備及び車両の定期検査に関する告示」では【新幹線車両状態・機能検査（交番検査）】は【30日、又は当該車両の走行距離が3万キロメートルを超えない期間のいずれか短い期間に行う】と定められています。それは変わっていません。しかし『車両の定期検査・第5条』に「・・・ただし、耐摩耗性・耐久性等を有し機能が（その）期間以上に確保される車両の部位にあつては、この限りではない」とあり、会社はその部分を「活用」して今回交検の検査周期延伸をしようとしています。そして、その「根拠」だとしているのが昨年末から行っていた「テストカー走行」です。

しかし、テストカー走行では「ライニング・研磨子・接地ブラシ・ホーン等の摩耗測定」や「アルミナ粉消費量」や「パンの押上力」の検証などは行っていますが、配電盤内の状態など『電気機器』等の検証は一切行っていません。これが会社が日頃から言う『安全最優先』でしょうか。「4.5万キロや6万キロ」で交検施工するよりも、「3万キロ毎」に施工した方が「多くご利用いただいているお客様のため」になるのではないのでしょうか。

「リニア建設のためのコスト削減」ありきで、「交検の検査周期延伸」がもし実施されれば私たちの「作業密度」も格段に上がります。

この12月は全ての日曜日が出勤です。正月も出勤のようです。「4期連続最高益」を上げながら冬のボーナスも昨年と同じでした。先頃「制定」されて作文も募集された「新幹線スピリッツ」も、自分の仕事に誇りをもつのはいいのですが、何か『我が社はリニア建設という国家的プロジェクトをやっているんだから賃金や労働条件などゴチャゴチャ言わずに会社の方針に従いなさい』とされているような気がしてなりません。

社員の皆さん現在の「会社の姿勢」は『安全最優先』でしょうか？！